

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は100年を超える歴史のもと、働きながら学ぶ生徒への工業教育を担ってきた。しかし、定時制高校の様子は大きな変化を迎えている。勤労青年は減少し不登校経験者、他校からの編・転学者、支援が必要な生徒、日本語を母国語としない生徒等さまざまな生徒の自立のため、個々の興味や関心、家庭環境や生活状況に応じた教育活動を実践する。もちろん工業関係の施設・設備を有効利用できることを最大の利点とし、工業技術を身に付けることも自立支援として活かし、それぞれの生徒の人格完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として地域社会のリーダーになり得る社会人を育成する。

- 1 府民の期待に応え、魅力ある定時制高校として、生徒、保護者、地域住民、府民などに広く開かれた教育活動を実践する。
- 2 定時制高校及び総合学科である本校の特色を生かし、多様な生徒の興味・関心に応じた教育活動を実践する。
- 3 教師と生徒が信頼を築き、生徒に寄り添った指導に努め、教員と生徒が教育活動を通じて明るく健康で活躍し、人権意識を身につけた人権尊重の教育を推進する。
- 4 生徒、保護者、府民の信頼に応えるため、教職員自ら意識改革をより一層進め、服務についても公明正大を期する。

2 中期的目標

次の取組みにより、働きながら学ぶ生徒の学力保障と夢の実現を図る。

1 キャリア教育のさらなる充実

(1)社会人としてのスキルアップをめざす

- ア:人として、社会組織を形成する社会人として、基本中の基本である挨拶の励行運動を、登下校時・校内巡視時や各教科指導の中で継続する。
- イ:全教科において社会の中で生活し多くの人と関わりを持つという「コミュニケーション能力」・「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を実施する。

(2)キャリア講演会・研修会の充実

- ウ:外部の人材による講演会や体験研修会を開催し、社会人としての職業観・勤労観の育成をより進める。
- ※学校教育自己評価の「将来の進路や生き方について考える機会がある」を80%以上にする。(29年度 65%)

(3)アルバイト経験の充実

- エ:就労体験のため、アルバイト斡旋を行い、在学中のアルバイト体験率を向上させ、生徒に自信をつけさせるとともに、就職の進路選択のひとつとさせる。

(4)進路指導の充実

- オ:生徒の就業意識高揚と進路選択力の育成、希望に応じた進路の実現を図り、学校斡旋就職希望者の100%内定を続け、今後3年間の目標とする。
- カ:就職のみならず、進学希望の生徒の実現に向けた指導を行い、29年度 5名(28年度 4名)であった進学者数を毎年1名以上増やす。
- キ:卒業時の進路未定率を10%以下に減少させる。また、第1学年次から進路指導をより一層展開し、(28年度 13.3% 29年度 8.3%) 30年度 5%以下、をめざし2020年度には0%を目標とする。

2 基礎学力の定着と向上

(1)基礎学力の向上

- ア:わかる授業を実践するため、ICT機器を利用した授業展開を増やすとともに、校内で、ICT教育研修を行う。
- ※学校教育自己診断の授業満足度を70%以上にする。(29年度 59%)
- イ:数学や国語の個に応じた反復指導を、徹底したモジュール授業で1学年を中心に行い、理解度の達成感を獲得させる。

(2)進級・卒業率の上昇

- ウ:生徒本人や保護者との連携を密にし、出席率の向上を図る。
- ※特に新入生に関しては、出身中学、地域機関等との連携をより一層図り、出席率や進級率の向上に努める。
- エ:卒業率・進級率を前年度比3パーセント以上向上させる。(28年度 58.9% 29年度 60.5%)

3 自尊感情の向上

(1)情操教育の推進

- ア:感受性向上を図るため、図書に親しむ環境として図書館利用や書籍等の活用を進める。
(始業前の図書館利用や、職員室内の書籍の貸し出しの増加をめざす。)
- イ:経験を通じて何かを感じることができるよう、アルバイト体験や、職業体験等の実施。

(2)学校生活の充実と活性化

- ウ:生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。
- エ:HR活動(体育祭、文化祭、球技大会等)を生徒指導の軸にできるような取組みの充実を図る。
- オ:定時制・通信制高校生秋季発表大会、エコデンレースへの参加。

4 生徒支援と校内安全体制の確立

(1)生徒支援委員会の活性化

- ア:教職員全員で生徒情報を把握し、定期的開催する生徒支援委員会において、教職員間での情報共有を図る。
- イ:生徒支援委員会で取り上げた生徒の支援体制を充実させ、必要な場合は関係諸機関と連携を行う。

(2)「安全で安心な学校づくり推進事業」の取組みと、生徒支援委員会、危機管理委員会を活用した対策の推進。

- ウ:「安全で安心な学校づくり推進事業」の研修成果を活用し、教育課題に対する教職員研修の継続実施とOJTによる教職員の育成を図る。
- エ:生徒支援委員会、危機管理委員会を中心に、生徒が安心して学校に登校できるよう、生活基盤の安定ができるよう事前事後対策・チェックを行う。

(3)健康教育の推進

- オ:教職員、生徒が健康で明るい生活ができるよう、健康、食育教育の充実を推進する。
- エ:教職員の勤務状況の適正化、及び生徒の就労先(アルバイト)での労働環境の調査を行い、生徒の指導に活かす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 10 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校生活】 ※ () 内数値は平成 29 年度 「学校へ行くのが楽しい。」・・・65% (51%) 「自分の学級は楽しい。」・・・75% (63%) 「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」・・・80% (70%) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」 ・・・82% (66%) 「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」 ・・・81% (80%) 「ホームルーム活動は活発である。」・・・80% (69%) 「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。」・・・75% (68%) 「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている。」・・・80% (69%) 本年度は 25 名の新入生、13 名の転・編入生を迎え、4 月当初 158 名の在籍生徒で新年度を迎えた。さまざまな問題を抱えた生徒が多く、出身中学への聴き取り、福祉関係機関等との連携を密にし、家庭状況等の把握に努め、生徒にとって居場所となる学校づくりに努めた。4 月、9 月には保護者を含めた個別面談を実施し、保護者に対しても「学校に登校することの意義」を説明し協力を願った。アンケートからも見られるように、教職員の日ごろからの指導により、生徒にとって「居場所」としてとらえられるようになった。「先生に話を聞いてほしい。」生徒が増え、その対応も完全ではないが、できつつある。</p> <p>【学習指導】 「授業はわかりやすく楽しい。」・・・72% (59%) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」 ・・・57% (60%) 「授業で工夫をしている先生が多い。」・・・77% (60%) 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」 ・・・79% (100%) 「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。」 ・・・77% (60%) 生徒自らの学力を知るため、学年当初に「学び直し授業」を実施し、何を学べばよいか、また生徒の学力判断の材料として授業に生かしている。基礎学力の定着が必要なことからモジュール授業の展開や、放課後の自習勉強も行った。ICT を用いた授業を行う教員も 50% を超え生徒が授業に積極的に参加する様子も見受けられた。今後は、定時制課程の生徒が「主体的・対話的で深い学び」ができるよう、議論を進める。</p> <p>【生徒指導】 「先生は協力して生徒指導に当たっている。」・・・84% (70%) 「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」・・・80% (65%) 「担任の先生以外にも保健室や相談室で、気軽に相談する。」 ・・・69% (57%) 「授業などで、豊かな心や人の生き方について考える機会がある。」 ・・・77% (64%) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」 ・・・83% (68%) 全教員が当番制での登下校時の校門での声かけ指導、また授業中における巡視を行い生徒に寄り添い指導を行っている。今年度は全体で、月間目標を設定し取り組んだ。生活指導部や生徒支援委員会が中心となり生徒に寄り添い的確な指導ができている。</p> <p>【進路指導】 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」 ・・・79% (65%) 「学校は進路についての情報を知らせてくれる。」 ・・・84% (75%) 卒業後の進路について生徒自ら考え、選択するよう進路指導部の丁寧な指導、生徒からの担任への進路相談等を行っている。また在校生についてはアルバイト就労を勧め、経済的安定や将来の勤労について考えさせている。早期に生徒が合った職種を経験し卒業後の進路につなげる。</p>	<p>【第 1 回 (平成 30 年 6 月 12 日)】 (1) 学校経営計画について ○定時制課程の「平成 29・30 年度学校経営計画及び学校評価」について委員に説明。 ・過去の工業高校定時制の生徒の様子とは違い、勤労学生はほぼ皆無と思う。今では学び直しの生徒が多く在籍していると思う。生徒に寄り添い、卒業まで導き、社会の一員として役立つ人間づくりに努めてほしい。 ・工科高校であることから、いろいろな工業に関する経験を積ませてほしい。 <学校経営計画については了承> ○全日制課程の「平成 29・30 年度学校経営計画及び学校評価」について委員に説明。 <意見があれば> → <意見なし> → <了承> (2) 学校協議会から学校運営協議会への移行について ○移行について説明。 <了承> (3) 進路指導部、教務部、生活指導部の現状について ○進路指導部 <実績報告、今年度の方向性> ■生徒の実態に合った、生徒が自ら考える進路指導 ○教務部 <ICT を活用した授業展開> ■対話型授業を重視し生徒が能動的に参加する授業をめざす ○生活指導部 <生活指導上の問題> ■懲戒研修は減少。不登校生徒の増加。いじめ問題への対応。 ・進路指導については、適切な指導をお願いする。施設の生徒が進学を希望している。しかし、学力が伴っているか心配である。 ・保護者の立場として、子どもを見ていて、卒業学年なのに大丈夫かと思う。 ・板書ばかりの授業では、生徒の興味がなくなりますね。年配の先生は大変ですが。 ・いじめは必ず起こるとの考えから対応すべきである。 (4) 授業見学</p> <p>【第 2 回 (平成 30 年 10 月 27 日)】 (1) 学校教育診断について ・「学校へ行くのが楽しい。」「自分の学級は楽しい。」この質問の肯定率が高いことが良い傾向である。 ・ICT 授業のより一層の導入で、授業はわかりやすく楽しくなったのではないかと。 ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」この肯定率が高いことに感心している。また、過去 3 年間で徐々に肯定率がアップしていることは素晴らしい。 (2) 本校を含めた定時制課程校の現状について ・今後の定時制高校の使命は、不登校やドロップアウトした生徒のための学校であり、また全日制では面倒をみることでできない学習意欲のない生徒も目先を変え見守ってくれている。 ・生徒の人間性をしっかり尊重している。つまづいた生徒の面倒を見て、卒業までさせてくれることが定時制の良さではないか。 (3) 生徒進路状況について ・進学を希望する生徒にとって、現状の学力で高等教育についていけるかが心配。 ・一人でも多く進級、卒業をして欲しい。 ・学校の丁寧な指導で子どもがかわった。2 学期になり将来について考え、別人のように良くなった。感謝する。 (4) 文化祭見学 ・全日制と比較すると規模は小さいが、生徒が一生懸命取り組んでいる。このような行事参加していることも感心する。</p> <p>【第 3 回 (平成 31 年 3 月 2 日)】開催予定 (1) 平成 30・31 年度学校経営計画 (案) について ・学校教育のセーフティネットとしての機能を高める。不登校経験生徒、日本語を母国語としない生徒への指導力を高め、卒業につなげる指導に徹することに関しては大いに賛成する。 ・生徒を助け、卒業を導くような指導をより一層お願いする。 ・全日制 (案)・定時制 (案) を了承する。 (2) 生徒状況について ・3・4 年生にもなれば落ち着き出席もする。自ずから進級や卒業に近づき進路に対しても指導が入りやすくなるが、生徒それぞれに伸びに差がある。これからも丁寧な指導をお願いしたい。 ・1・2 年生は目標が見いだせない生徒が多く問題が山積している。 (3) 新任教諭からの報告 ・必死になり職務をこなした。特に授業においては、どのレベル合わせれば良いのか悩んだ。これからはいろいろなことを試したい。 (4) 卒業式について ・毎年、答辞を含めて立派に巣立つ生徒に感動をいただく。卒業しても「やりたいことを、やりなさい。」と前向きに生徒をこれからも後押ししていただきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
① キャリア教育のさらなる充実	(1) 社会人としてのスキルアップをめざす (2) キャリア講演会・体験会の充実 (3) アルバイト経験の充実 (4) 進路指導の充実	(1) ア：基本的な生活習慣の基礎である、また社会人として必要な挨拶の励行運動を、登下校時・校内巡視時や各教科指導の中で継続する。 イ：全教科に「コミュニケーション能力」・「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を実施し、将来、社会の中で対応できるよう基礎知識、技能を身につけさせる。 (2) ウ：外部人材の講演会や体験研修を開催し社会人として職業観・勤労観の育成をより進める。 (3) エ：就労体験のため、アルバイト斡旋を行い、在学中のアルバイト体験率を向上させ、生徒に自信をつけさせるとともに、就職の進路選択のひとつとさせる。 (4) オ：生徒の就業意識高揚と進路選択力の育成、希望に応じた進路の実現を図り、学校斡旋就職希望者の100%内定をめざす。 カ：卒業時進路未定率を10%以下に減少させる。	ア：学校教育自己診断の基本的な生活習慣の確立の満足度を(29年度64.0%)70%にする。 イ：学校教育自己診断の授業で自分の考えをまとめたり発表に機会がある満足度を(29年度60.0%)65%以上にする。 ウ：講演会の感想や学校教育自己評価の「将来の進路や生き方について考える機会がある」を(29年度65.0%)70%以上にする。 エ：在学中アルバイト体験率を(29年度86.0%)を水準維持する。 オ：学校斡旋就職希望生徒の就職内定率(29年度100%)100%継続。 カ：進路未定卒業生徒率(29年度8.3%)を6%以下にする。	ア：「基本的な生活習慣の満足度」79%・・・(◎) イ：「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」57%・・・(△) ■従来型授業の改善 ウ：「将来の進路や生き方について考える機会がある」79%・・・(◎) エ：アルバイト体験率85%・・・(◎) オ：学校斡旋就職希望生徒の就職内定率100%・・・(◎) カ：進路未定卒業生徒率7.1%・・・(○)
② 基礎学力の定着と向上	(1) 基礎学力の向上 (2) 進級・卒業率の向上	(1) ア：わかる授業を実践するため、ICT機器を利用した授業展開を増やすとともに、校内でICT教育研修をおこなう。 イ：数学や国語の個に応じた反復指導を、徹底したモジュール授業で1学年を中心に行い、理解度の達成感を獲得させる。 (2) ウ：生徒本人や保護者との連携を密にし、出席率の向上を図る。 エ：卒業率・進級率を前年度比3パーセント以上向上させる。	ア：学校教育自己診断の授業満足度を(29年度59%)70%以上にする。 イ：モジュール授業の個別学習教材の作成と受講人数を(29年度6人)6人以上とし継続させる。 ウ：担任を中心とした教職員の家庭訪問回数(29年度85件)を同程度実施する。 エ：卒業率・進級率(29年度60.5%)63.5%の達成。	ア：授業満足度72%・・・(◎) イ：7人 ウ：49回・・・(△) ■ただし、警察、福祉機関等への訪問回数等23回 エ：卒業率・進級率68.3%・・・(◎)
③ 自尊感情の向上	(1) 情操教育の推進 (2) 学校生活の充実と活性化	(1) ア：感受性向上を図るため、図書に親しむ環境として、図書利用や書籍等の活用を一層進める。 イ：経験を通じて何かを感じることができるようアルバイト体験や職業体験の実施。 (2) ウ：生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。 エ：HR活動(体育祭、文化祭、球技大会等)を生徒指導の軸にできるような取組みの充実を図る。 オ：定時制・通信制高校生徒秋季発表大会、エコデンレースへの参加。	ア：図書館利用者数(29年度55人)年間70人以上、書籍貸出数(29年度22冊)30冊を目標とする。 イ：在学中アルバイト体験率を(29年度86.0%)を維持する。 ウ：生徒会活動を通じて生徒が民主的な手続きを経て主体的に活動できるよう学校全体で支援している肯定割合(29年度82%)を85%とする。 エ：学校教育自己診断の文化祭・体育祭の満足度を(29年度体育祭69.0%文化祭68.8%)70%以上にする。 オ：同じ定時制、通信制の高校生と集い発表を行うこと、また、工業科目の選択を生かし、その技術を披露し自尊感情の向上をめざす。秋季大会への作品・発表を含め2名以上をめざす。	ア：図書館利用者数9人 書籍貸出数15冊 ・・・(△) イ：アルバイト体験率85%・・・(○) ウ：学校全体で支援83%・・・(△) エ：文化祭の満足度75%・・・(◎) 体育祭の満足度80%・・・(◎) オ：生徒秋季発表大会への参加生徒参加0人・・・(△) ■10月の大会に向けて、出場生徒を募り指導したが、出場を断念した。生徒の状況を踏まえ、挑戦する土壌をつくる。

府立今宮工科高等学校 定時制課程

<p>④ 生徒支援と校内安全体制の確立</p>	<p>(1) 生徒支援委員会の活性化 (2) 「安全で安心な学校づくり推進事業」の取組みと、生徒支援委員会、危機管理委員会を活用した対策の推進。 (3) 健康教育の推進</p>	<p>(1) ア：教職員全員で生徒情報を把握し、定期的開催する生徒支援委員会において、教職員間での情報共有を図る。 イ：生徒支援委員会で取り上げた生徒の支援体制を充実させ、必要な場合は関係諸機関と連携を行う。 (2) ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」の研修成果を活用し、教育課題に対する教職員研修の継続実施と OJT による教職員の育成を図る。 エ：生徒支援委員会、危機管理委員会を中心に、生徒が安心して学校に登校できるよう、生活基盤の安定ができるよう事前事後対策・チェックを行う。 (3) オ：学校教育活動の推進のため、教職員に対し、健康維持増進研修会の実施を実施する。 カ：基本的な生活習慣の確立をめざし、生徒に対する健康、食育教育に関する講演会の実施。 キ：生徒の健康維持の基本となる、総合健康診断、各種検診への完全実施。</p>	<p>ア：1年個人面談の実施と高校生活支援カードへの記入充実具合の継続。 イ：生徒支援委員会の開催回数を(29年度 11回)毎月開催、地域福祉関係等連絡会への参加を(29年度 5回)3回以上とする。 ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」への研修参加回数(29年度 延べ 37回)及び校内研修実施回数を(29年度 3回)前年度回数以上とする。 エ：危機管理委員会が必要な場合の開催(開催回数0が目標) オ：年間に1回の研修会を実施する。また、ノークラブデー、定時退勤日の完全実施。 カ：年1回の健康教育を実施する。またアルバイト就労に関するアンケートの実施。 キ：生徒(長欠生徒を除く。)の総合健康診断参加率を100%</p>	<p>ア：生徒支援委員会の情報管理の下、指導上必要な情報を教員で共通理解し、問題の解決に努めた。・・・(◎) イ：生徒支援委員会は8月を除く毎月開催し、情報の共有を図った。福祉関係等連絡会への参加回数は59回・・・(◎) ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」への研修参加回数述べ15回(府立人権 府立外教研修 41回) 校内研修 3回 ・・・(◎) エ：危機管理委員会の開催回数0回 ・・・(◎) オ：健康維持増進に関する職員研修1回 ノークラブデー 完全実施 定時退勤日 完全実施 ・・・(◎) カ：生徒へのアルバイトに関するアンケート調査を実施 労働・アルバイトに関する研修を実施・・・(○) キ：生徒の総合健康診断参加率100%・・・(◎)</p>
-------------------------	--	--	---	--